



# ひめゆり

令和5年12月発行

PTA文化委員会

## 第2号によせて

日頃よりPTA活動にご協力いただき、ありがとうございます。

今年度は、色々な制限が緩和され昨年度と比べても、学校行事やPTA行事と色々なことが再開された年になったのではないかと思います。子供達が活躍する場所や笑顔が見ることができ、うれしく思います。子供たちが楽しそうな表情を見ると、保護者の方も地域の方もうれしい気持ちになったのではないかと思います。この笑顔を守っていきたくものです。

来年も引き続き、ご協力お願い致します。

PTA会長 児玉 裕美



この期間は多くの行事が実施されました。コロナ以前の通常の活動に戻る部分と、新しい生活様式の制限を生かしながらの学習や活動が基本となるものと、精査しつつ時期を生かしたものととなりました。そこでは、何より保護者や地域の皆様のご理解とご協力に感謝をお伝えしたいと思います。皆様には、子どもたちの、生き生きとした姿を、ひたむきな姿を、きつと感じていたとき、暖かな眼差しと、励ましの言葉を伝えていただいたと感じています。

特に、令和5年度第2回高森町公開授業では、百名を超える参加者のために、保護者の皆様には道案内を頂いたり、授業参観を頂いたりしました。終日開催へ舵を切らせていただいたひめゆり文化祭は、学校運営協議会委員の皆様をはじめ、地域の皆様に多数ご来校いただきました。時に応じて、子どもたちが「一生懸命事」に向かう場面で、子どもたちの確かな成長へつながっていると感じています。

本校の学校教育目標である「自ら夢を切り開く、誇り高き児童生徒の育成」をこれからも保護者の皆様、地域に皆様と一体に取り組みながら、令和5年度のまとめの時期へ進みたいと思います。いよいよ年末になります。皆様、ご自愛いただきながら、よい年をお迎えくださいませ。

校長 本田 雅隆



### 学年レクリエーション

夏休みに入ったばかりの7月25日に、1・2年生学年レクリエーションを行いました。まずはのおかつベースでフラワーキャンバス作りや作りを行い、個性輝く作品が出来上がりました。お昼ごはんは場所を五ヶ所に移して、焼鳥をしたり、かき氷を食べたり、ビンゴゲームをしたり、最後にスイカ割りもしました！夏の思い出になったかな？と思います。

文化委員 甲斐 忍

### 資源回収

数年ぶりの、八月の資源回収作業では、先生、保護者の皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。保護者数が減少し、各地域からの資源回収は厳しくなる中、今年は地域の皆様のご協力と女性の会の方々のご協力により、無事終了することができました。感謝いたします。

資源回収の資金は、子供達のために大事な活動資金として使わせていただきます。地域の皆様ありがとうございました。

厚生委員長 甲斐 哲郎

### 各種PTA行事



7・8年生



6年生



1年生



### 阿蘇フォーラムに参加して

11月18日小国ドームで行われた阿蘇フォーラム。児玉裕美会長他、瀬井 愛さん、甲斐佳多子さん、山本教頭先生と参加しました。オープニングには9年生児玉佳樹さんの堂々とした「少年の主張」から始まりました。前半は「今こそ魅せよう！オトナの背中！！」PTA活動は大人の部活動の「タイトルで、講話がありました。昨今、都会ではPTAに参加しない保護者が増えていると耳にします。大人の部活動としての考え方は「アリだな！」と私は感じました。今後PTA活動に参加することが難しい時もあるかも知れませんが、子どもたちのためにも、そして私のためにもPTA活動を楽しんで参加したいと思いました。

文化委員 草村 由美

# ひめゆり文化祭

## 2023 11.12

4年ぶりの終日開催。たくさんの地域の皆様にもご覧いただくことができました。



私は、オクロックを初めて見たので、面白かったです。また見れるとしたらまたみたいです。私もオクロックにきょうみをもてました。去年見れなかったから、今年見れてよかったです。オクロックの皆さんに合えることをのりたいです。

今日は本当に楽しい一日だったと思います。これも先生や保護者の方のおかげだとおもいます。これからも最高の思い出をつくりたいです。

4年 甲斐 月菜



僕は今日の文化祭で自分はましがえなくてハキハキ言えたり、ことばの長い文をきんちようしな言えたり、まああるい命も、かしをよく覚えて、手話もましがえなくて言えてうれしかったし、ツバメダンスでよく笑って、動きを大きくしておどれたと思えました。上の学年の学生になりきって調べるのが、なぞときみたいになるのがおもしろくて、また文化祭をしたいと思います。

3年 矢津田寿樹



文化祭を楽しむために、ダンスの練習を頑張った本番はみんな楽しく踊りました。また、5〜8年生の発表やダンスをみんな楽しく踊ったことが心に残りました。自分が成長したと思うことは、自分たちの発表のときや閉会式の言葉を自信をもって、大きな声で発表できるようになったことです。

今回の体験・経験を踏まえて、来年は、9年生みんなで行ってみたいことを考えて、今回の発表の仕方を次のときに生かしたいと思っています。

8年 矢津田悠香

5〜8年生の発表で、オープニングのげきをしたり、スライドを発表したりして、きんちようしたけど頑張りました。個人発表のダンスで、始まる前はずっとドキドキしていましたが、踊っていたら楽しくなり、またやりたいたと思えました。自分が成長したと思うことは、人前で発表するのが苦手だったけど、少し苦手じゃなくなったことです。来年もおそらく5〜8年生で発表すると思うので、今年教えてもらったことを忘れないようにして来年にもいきたいと思います。

5年 瀬井 あれん



子どもたちの演技や歌はとても素晴らしく、とても感動しました。他にもO96Kの公演や太鼓の演奏、個人発表もあり、充実したプログラムで、丸一日楽しむことができました。ありがとうございました。

文化委員 瀬井レメディオス

# バドミントン県・九州大会 駅伝大会 音楽会

今年も、対外的な大きな行事も制限なく実施されました。みんな一生懸命頑張りました。

バドミントン県大会 7. 22 23 九州大会 8. 7

東中・東学園を通じて初の九州大会出場でした。

高森東学園として九州大会に出場できたことはとても誇りです。私は、怪我をすることが多く人より練習する期間が短くなることも多くありました。しかしハビリに通い、休む期間でもできるだけ体を作り上げていきました。復活後も自分を追い込み、相手と息をあわせられるようになりました。結果、九州大会に行くことができましたが、惜しくも一回戦負けだったので、次に生かして、高校ではより上位を目指して頑張りたいです。

9年 甲斐龍生

九州大会に出て一言にまとめるととても悔しかったです。試合は一回戦で負けてしまいました。しかし、他の人のレベルの高い試合を見ることができ、良い刺激をもらうことができました。そして、とてもいい経験ができたので、高校でも上を目指して頑張りたいです。

9年 児玉佳樹

バドミントン部全員が、高い目標をもって、日々の練習や各種大会を精一杯頑張ってきました。その成果が、郡市中体連団体優勝、九州大会出場という結果につながり大変嬉しく思います。これも一重にこれまで東学園バドミントン部の伝統を築いてこられた先輩方や地域の方々、高スポの先生方、東学園の先生方のおかげです。そのことを忘れず、誇りと感謝の気持ちをもつて、これからも頑張り続けてほしいと思います。

バドミントン部監督 北慎一郎



県大会・九州大会より



7月22・23日に行われた県大会でベスト4に進出し、8月7日の九州大会に出場された甲斐龍生・児玉佳樹ペア。緊張の中、最後まで頑張っている姿に感動しました。9年生のこのメンバーで行う最後の試合でしたが、限られた練習時間で素晴らしい結果だったと思います。その姿勢は先輩たちにしつかりと受け継がれたと思います。9年生のみならず、お疲れ様でした。

バドミントン部保護者 阿南 愛子

## 中体連駅伝大会 10. 19

9年生6名でチームを作り、後期課程全員で応援しました。駅伝大会に向けての練習を通して前向きに物事をやることの大切さに気づきました。大会出場については、出たくなかったと思いましたが、練習を続けていくと結果がついてきて楽しいと思えるようになりました。僕は最下位脱出という目標もありましたが、最後までタスキをつなぐことを頭に入れて走りましたが、僕は2区を走りました。試走よりタイムは落ちていましたが、チームは8位でした。練習の成果が結果に出て、大会に出てよかったと感じることができました。

9年 井上誠喜



文化委員 井上二すえ

## 郡市音楽会（阿蘇中） 10. 31

後期課程だけでなく、初めて5・6年生も参加しました。

みつこ先生が教えてくれた、立ち方、口の開け方など、みんなと声を合わせて歌うことができました。初めて郡市音楽会で、大勢の人の前で歌い、初めは緊張したけれど、荒木先生が前に立ち、笑顔で指揮をしてくれて、後半は緊張せずに練習のときのように歌うことができました。

5年 林樹璃

今回の音楽会を通して、音楽は楽しいという気持ちを改めて知ることができました。最初は、5・9年生で合唱は大丈夫か心配だったけれど、練習を積み重ねていくうちにどんどん全体のレベルがあがったと思います。なんとなく知っていた曲が1ヶ月という短い期間の中でこんなに心が1つになれるのに驚きました。人数が少ない中で、3部合唱でわかれたときに、ソプラノの先輩のリズムをしっかり聴いてるうちに、みんな楽しんでみながら合唱の練習ができていったと思います。

6年 矢津田愛綾

10月31日、阿蘇中学校で行われた4年ぶりとなる阿蘇郡市音楽会に、5年生から9年生までが参加し、翼をください、ふるさと、の合唱を披露。中学生の低音と、小学生の伸びやかな声が見事なハーモニーとなり、会場いっぱい響き渡りました。力強い歌声にとっても感動しました。

文化委員 後藤 賢太郎



# 11月1日 校内マラソン大会

青空のもと、みんながんばりました。

11月1日、校内マラソン大会があり、1.5km、3km、8km、10kmの各コースで行われました。個人で目標タイムを決めての挑戦でした。保育園からかわいい声援を、沿道からも温かい声援をいただき、子どもたちは一生懸命走っていました。自分の子どもさんと走られた保護者の方もおられ、すごいと思いました。また、子どもたちはケガもなく、全員完走しとても良かったです。沿道で応援いただいた地域の皆様、そして保護者の皆様、そして先生方ありがとうございました。

文化委員 末永 瑠理

# 11月22日 子ども議会

今年もアイデアを町政に提案しました

僕たちのグループは「高森町の移住・定住者を増やす」という提案を考えていて、多面的な視点から、考えて提案することが大変でした。その中で「提案と要望は違う」という言葉を思い浮かべながら、提案をしました。その中でも提案がそれないようにスライドにまとめたりしました。本番では、案の定緊張しました。しかし、多少早口だったけど、大きな声で提案することができました。

9年 吉村悠萌



最初は高森の強みをどう活かすかについて考えていました。そこで自分の町でやっていた子どもカフェというところと高森の公民館再生事業を組み合わせるところまででは考えられなかったのですが、高森の施策などを調べて組み合わせることができました。課題などもたくさんあったので最初はこれでもいいの不安だったのですが色々な機関との連携などで解決できました。

9年 佐藤力丸

今回、子ども議会で、大きな声でゆっくり話すごころが難しく、最初のうちは、全然だめだったけど何度も練習を繰り返すうちに、大きな声で言えるようになっていたので嬉しかったです。今回スライド作りをしたことを生かして高校でも活かせるように頑張っていました。

9年 阿南 凌人



# 9月24日〜26日 8年修学旅行

4年ぶりに関西方面への旅行でした。

西光寺の講話が心に残りました。人間に生まれて京都に行けて、お話を聞けたりできていることは当たり前ではないことで感謝するべきことだと気がかされました。そして、間違った物差しや偏見で物事を見てはいけないと知ることができました。これからは自分を誇りに思い、何事にも感謝して生きていきたいと思いました。

8年 野尻 玲実

1日目は、西光寺で話を聞いたときに今までどんな事があったのかを知ることができました。京都のときの班行動で、どのように行くといいのかやどこに行くといいのかをみんなでしっかり話し合いながら移動しながらいろいろな建物を見ることができました。また、USJでは京都のときの反省を活かして早めにお昼ごはんを食べたり工夫しながら楽しむことができました。

8年 瀬井沙由里

コロナが5類となつてからの、関西への修学旅行。次女の時は行けなかったもので、楽しんでおいで、と見送りました。

修学旅行の前日に、大学生の長女が夏休み期間を終えて、長崎へ戻り、一気に我が家は静かに。お父さん、私、次女三人の食卓はとても静かでTVの声だけがする時間でした。悠香がいることで、我が家の食卓に会話があつたんだな、と思った。修学旅行期間でした。

体育・文化委員長 矢津田和美



# 10月20日 高森町公開授業

町や東学園の研究について、大勢の方々が見学されました。

自立した学習者の育成」というテーマで公開授業を行い、100名を超える参観者が来校されました。1・2年生は体育「マットあそび」、3・4年生は「デジタル新聞づくり」、5・8年生は「ニュース動画作成」、9年生は「高森町活性化プランの練り上げ」の授業を公開しました。どの学年においても子どもたちが生き生きと活動する姿が見られました。

研究主任 津田 歩



県内外から100名以上の教育関係者、関連企業の方々が集まり、公開授業が行われました。保護者だけではなくたくさんの大人たちが見守るなか、子どもたちは通常の参観日とはどこか違って、授業を受ける姿がきりついているようにも見えました。

保護者の皆様には朝から駐車場の誘導や整理もしていただきました。お疲れ様でした。

文化委員 川部 篤彦

## 編集後記

今年も残りわずかとなりました。12月の暦を見ると、いつも思うことは、大掃除です。早めに取り掛かろうと思いつつ、なかなかかはかどらないものですね。今年も色々ありましたが、掃除のように心残りなく、来年を迎えられるようになったらいいですね。

体育・文化委員長 矢津田和美



編集会議にて